



授業者 大谷 彩教諭

単元 昔話のおもしろいところをリーフレットでしようかしよう
「三年とうげ」(光村図書三下)

単元計画 (全9時間)

第1次 学習計画を立てる

第2次 おもしろいところを紹介するために「三年とうげ」を読む
おもしろいところを紹介するためにお気に入りの昔話を読む

第3次 紹介と単元の振り返りをする

言語活動 昔話を読んで、おもしろいと思ったところをリーフレットに書き、紹介する。
〈C読むこと〉 言語活動例イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

育成したい資質・能力

- 登場人物の気持ちや変化について、叙述を基に捉える力
- 様子や気持ちを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使う力
- 友だちと自分の考えを比べて聞きながら、新しい言葉に着目し、言葉がもつよさに気付く力

提案授業のポイント 全員が自分の考えをもち、表現できる単元づくり、「自分の言葉で自分の考えを伝えることができる」ようにするための授業づくりを研究している。本時は、おじいさんの気持ちの変容について叙述を基に、子どもが様々な考えを出し合い、全員が「豊かな読み」を獲得する学習過程がポイント。

講師：松永立志先生より 教材研究のポイント(ポイント1~3)や、自分の学習をメタ認知するためには、共通のめあてとともに個人のめあてももたせると良いこと。言語活動の履歴の引き継ぎ(どういう言語活動で、どういう力がどこで、どういう風についているか)が重要であること。

ポイント1 **トラック図**

トラックは「指導事項」荷物は「教材の内容」

パンフレットを作る 伝えたい内容・目的・相手
①おもしろい、見てほしい、考えてほしいこと
②相手の要求や希望していること → 引きつけ
③現場で見解・体験したこと、写真
④調査したこと

作文の過程 ①構想(相手目的・題材・パンフレットの形態)
②取材(相手の要求条件、内容への責任) 記事の優先順位
(取材の方法〜現地、写真、インタビュー、資料)
③構成(全体の構成、各ページの割り付け、表紙)
④叙述・推敲(手直し、見直し、解説記事) 読み手コピー
⑤交流・即席(相手との話し合い、手直し、必要情報)
*編集会議 プレゼンテーション 著作権

教材研究では、まず「トラック図」を描く。人が書いた指導案はなかなか直せないで、検討する際は、まず個々の「トラック図」を持ち寄り、教材分析をする。単元で付けたい力と教材の内容とが結びつくことが大切。

ポイント2 **全文シートの活用**

教師も子どもも、読み物教材を一枚の紙にした「全文シート」を手につかす。物語の学習では、変容を叙述に即して読み取るためには全文が必要。そのシートに、直接自分や友だちの考えを書き込む。交流する時に、自然と「友だちの考えを知りたい」「どこに書き込みを入れたの」などと必然性のある対話生まれ心情・行動・情景などのつながりを線でつなぐことで、変容を明らかにしていく。

ポイント3 **並行読書**

理想的な並行読書は、単元の終わりに向けて、徐々に関連読書教材を学習する割合が増えていく。一番大切なのは、二次の学習が三次に活かされるように仕組むことである。

協議の要点

- 本単元で付けたい力のポイントを絞り、その力の獲得に向けて単元を構想していく。
- 子どもの意見を板書に残し、考えの共有に生かす。

【授業者より】 2場面と4場面から、おじいさんの気持ちが分かる文を見つけ、表にまとめていきました。文章に立ち返り、叙述から自分の考えを見つけられるように本文を拡大し、掲示をしていましたが、それらを有効に活用することが難しかったです。